



桃一通信

桃井第一小学校
(3390)3178(代)

No. 6 8 1

令和5年 11月号



改めて「教育ビジョン」を考えてみる

校長 高橋 浩平

10月16・17・18日と6年生の弓ヶ浜移動教室がありました。「かたく・たかく・つなぐ～全力成長～」の目標のもと、2泊3日、小学校生活最後の宿泊学習を行いました。集団での行動、友達と協力し合っの活動を経験し、またひとつ成長できたと思います。この経験をこれからの小学校生活にも活かしてほしいと願っています。

さて、2学期になって何人かの子供たちに「学校に行きたくない」「学校がつまらない」と言われました。「行きたくない」「つまらない」理由は様々にあると思いますが、やはりそうダイレクトに口に出して言われると辛いものがあります。

昨年度新しくなった「杉並区教育ビジョン2022」は「みんなのしあわせを創る杉並の教育」がスローガンです。子供たちも、保護者も、先生たちも「しあわせ」である、というのがビジョンの目指すところであり、そう考えると、「学校に行きたくない」「学校がつまらない」⇒「学校でしあわせではない」ということは何かしないといけない、と感じています。

ビジョンには「すべての人が教育の当事者」という指摘もされています。他人事ではなく自分事として考えたり行動したりできるかどうかは大きなポイントだと思っています。人間、誰しも大なり小なり不平不満をもつことがあるでしょう。でもそうした不平不満

を簡単に表明してしまう(言葉にする・文字にする)傾向にあるような気がしています。子供の問題というよりも世の中で生活している人々全員が陥りやすい問題ではないかと捉えています。巷ではSNSの中で聞くに堪えない暴言があふれています。ひと昔前には決して口にしなかったであろう暴言が日常的に子供たちのまわりに飛び交っていることを思うと、もはや学校だけの努力では難しいのではないかと、思ったりします。

とはいえ、嘆いているだけでは何も始まりません。「学校に行きたくない」「学校がつまらない」という子に「じゃあ、何をしたら楽しくなるのかな？」と聞くと、大半の子が「ゲームをしたい」と答えます。「ゲームをすることが子供たちにとって一番やりたいこと」になっている現実を少しでも変えていきたいと思います。弓ヶ浜移動教室ではナイトレクでクラスごとの出し物や、行動班ごとにサンドアートをつくることを楽しんでいました。そうした楽しみを学校生活の中でもっともっとつくり出せないかと考えています。

11月には桃一劇場もあります。みんなで協力して一つの劇を作り上げる楽しさも存分に味わってほしいと思います。ご家庭でのさらなるご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



11月の生活目標「物を大切にしよう」



11月の生活目標は「物を大切にしよう」です。物を大切にするという気持ちは、名前を書くことから始まります。万が一落したり、なくしたりしてしまったとしても、名前が書いてあれば拾った人が持ち主に届けることができます。改めてお子さんの持ち物1つ1つに名前が書いてあるか、一緒に確認してみてください。

自分のものだけでなく、学校の物もきまりを守って大切に使用できるようになってもらいたいと思います。お家でも物の扱いについて改めて話し合っていたいただけたらと思います。



★遅刻や忘れ物を取りに来る場合について★

学校に遅刻する場合や、放課後忘れ物を取りに来る場合には、保護者の方の付き添いが必要です。学校の北門から入り、必ず教室まで付いて来ていただくようお願いします。

(生活指導部)



桃一小のICT

本校では1・2年生は学校で保管して、3年生以上は毎日持ち帰りで、1人1台のタブレット端末を使用しています。タブレット端末は、新しい学びのツールとして、学校だけでなく家庭や校外学習など、「いつでも、どこでも」使うことができます。従来の鉛筆やノートと同じように新しい文房具として、タブレット端末の活用場面を自ら選択して、効果的かつ日常的に使いこなすことで、一人ひとりの学びがより豊かになることが期待されます。

授業の場面では、「ロイロノート」や「ムーブノート」といったソフトを使い、協働的な学習を進め、自分の考えを広げたり深めたりしています。AI型ドリル「ドリルパーク」を活用して、個人にあった問題を解き、個別最適な学習も進めています。情報モラル教育については、動画教材を用いて、タブレット端末を適切に使用できるように指導しています。また、委員会では児童が動画を撮影・編集し、全校に向けて発表する活動もしています。

タブレット端末の修理に長い時間がかかります。貸し出し機の数にも限りがあり、一度修理に出してしまうと使えない期間が出ることもあります。ご家庭でもタブレットの扱い方をお子さんと話していただければと思います。また、アップデートを行う際にご家庭のご協力が必要になる場合があります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(ICT広報部)





笑顔が満ちる モモインピック148

今年度は、参観者の人数制限を設けず、たくさんの保護者・地域の皆様に、子供たちの頑張る姿を見ていただくことができました。

短い練習期間の中でも充実した時間を過ごした子供たち。本番でもはつらつとした表情、全力を尽くす姿を披露し、多くの人に笑顔を届けました。どの子供たちも学年のために、クラスのために、自分のために頑張った経験が豊かな成長のきっかけになったことと思います。6年生は一人一人が係を担当し、1、2、3、4年生をサポートしながら学校のみんなを盛り上げてくれました。

本番まで、保護者・地域の皆様にはたくさんのご協力とご理解をいただきました。本当にありがとうございました。



桃一劇場に向けて 各学年の取り組み

1年生

1年生は、生活科見学で、先月「野川公園」に行きました。自然の中で、友達と仲よくネイチャーゲームをしたり、どんぐり拾いをしたりして、深まる秋を体全体で感じ取ることができました。

今月の桃一劇場では、「11びきのねこがたびにでた」という劇を行います。自由で気ままなねこたちが、旅に出て、いろいろな体験を通して学び、成長していくお話です。まさに1年生と重なるところがあります。役になりきって演じるかわいい子供たちの姿をぜひご覧ください。

2年生

2年生は生活科の学習で、町探検をしました。探検する活動を通して、施設や働いている人々について考え、自分達の生活は様々な人や場所と関わっていることが実感できました。子供たちは、インタビューしたことや実際に触った体験などを、どのように伝えていくかを考えています。

今月の桃一劇場では「スイミー～小さなかしこい魚の話～」という劇をします。スイミーをはじめ、様々な生き物になりきって、子供たちの演じるスイミーの世界にご期待ください。

3年生

3年生は「本当の宝ものは」という劇をします。

世界宝ものコンテストが開かれ、いろいろな国が大切にしているものを紹介していきます。アポロン連邦という国は、月の水が宝もの。チヨーメイ国はお年寄り。審査員達が、合格か失格かを決めていきますが、けんかになったり、困ったことになったり、ハプニングがいっぱいです。見ている皆さんにたくさん笑顔になってもらえるよう、3年生の子供たちと工夫をこらしながら、心をつなげて劇を作っていきます！お楽しみに！

4年生

桃一劇場では、「何でも引き受け株式会社」という劇をします。

もし、宿題、お手伝い、野菜を食べることなど、面倒くさいことを引き受けてくれる会社があれば利用してみたいですか。しかし、いつまでも何も変わらなくてよいのでしょうか。心の迷いに葛藤するただし、さゆり、かずきの3人。そして、苦手ななわとびに挑戦することを決めた彼らの結果はいかに。

子供たちの楽しく演じる姿にご期待ください。

5年生

桃一劇場では、「モモと時間どろぼう」を演じます。

みなさんは、時間をどのように使っていますか？

1日は24時間、1年は365日。その中に無駄な時間はどれほどあるのでしょうか？無駄な時間があるとしたら、時間どろぼうがねらっているかもしれません。

5年生121名が、想像力と創造力を働かせて、光と影の演技をします。応援よろしくをお願いします。どうぞお楽しみに。

6年生

桃一劇場では「エルコスの祈り」という劇を行います。

親や教師に見捨てられ、夢も個性も奪われて無気力に生きていた子供たちが、エルコスに出会い、忘れていた優しい心や笑顔、自分らしさを取り戻していきます。複雑で繊細な感情や難しくてかっこいい歌とダンスの表現の仕方にご注目ください。

6年生一人ひとりが個性という花を開き、生き生きと輝いて演じる姿をぜひご覧ください！

